



図書館だより

2017
5月
能勢高等学校図書館

もうすぐゴールデンウィーク！ 何する？

新しい本、はいています。

ルポ ネットリンチで人生を壊された人たち

ジョン・ロンソン著 光文社新書

自らの行動やコメントが原因で大炎上し、社会的地位や職を失った人たちを徹底取材。

ツイッターやフェイスブックなどのSNSを舞台に、現代によみがえった「公開羞恥刑」=ネットリンチの実態と深層に迫る！



ビブリア古書堂の事件手帖7 栗子さんと果てない舞台

三上 延著 KADOKAWA

ビブリア古書堂に迫る影。奇妙な縁で対峙することになった劇作家シェイクスピアの古書と謎多き仕掛け。そこには女店主の祖父による巧妙な罠が張り巡らされていた…。古書にまつわる謎を解くビブリオミステリ。

i 西加奈子著 ポプラ社

「この世界にアイは存在しません。」入学式の翌日、数学教師は言った。ひとりだけ、「え」と声を出した。ワイルド曾田アイ。その言葉は、アイに衝撃を与え、彼女の胸に居座り続けることになる。ある「奇跡」が起こるまでは――。



がん消滅の罠 完全寛解の謎 岩城一麻著 宝島社

余命半年の宣告を受けたがん患者が、生命保険の生前給付金を受け取ると、その直後、病巣がきれいに消え去ってしまう。連続して起きるがん消失事件は奇跡か、陰謀か。 医師・夏目とがん研究者・羽島が謎に挑む！

夜行 森見登美彦著 小学館

僕らは誰も彼女のことを忘れられなかった。私たち六人は、京都で学生時代を過ごした仲間だった。十年前、鞍馬の火祭りを訪れた私たちの前から、長谷川さんは突然姿を消した。十年ぶりに鞍馬に集まったのは、おそらく皆、もう一度彼女に会いたかったからだ。「夜行」とは何か。彼女と再会できるのか。



よるのばけもの 住野よる著 双葉社

夜になると、僕は化け物になる。ある日、化け物になった僕は、忘れ物をとりに夜の学校へと忍びこんだ。誰もいない、と思っていた夜の教室。けどそこには、なぜかクラスメイトの矢野さつきがいて。

小やぎのかんむり 市川朔久子著 講談社

夏芽は、中高一貫校に通う中学3年生。親との確執を抱える夏芽が飛びこんだのは、人里離れた小さな山寺でのちょっと不思議なサマーキャンプだった！人のやさしさを知る、感動の物語。



教誨師 堀川恵子著 講談社

一四歳の夏、渡邊普相は広島島の爆心地のすぐそばにいた。そこで見たものは、戦争という人間の愚かさが作りだした無用の「死」だった。後年、教誨師となってから見たものは、人間が法律という道具で作った罰としての「死」であった。ふたつの死とともに歩んだ僧侶の人生が語りかけること

素数はめぐる 西来路文朗著 講談社 (ブルーバックス)

「1÷素数」から見えてくる奥深い数の神秘。シンプルな割り算から生まれる循環小数には、おどろきに満ちた数のふしぎがいっぱい！ 背後にひそむ素数の性質をやさしく解き明かす、極上の数学ミステリー。

142857 と、先頭の1を末尾に回した 428571。
2等分して足す(142+857、428+571)と、どちらも答えは 999!



葬送の仕事師たち 井上理津子著 新潮社

尊厳をもって「送る」とは？ 葬儀社社員、納棺師、エンバーマー、火葬場職員……。 「死」の現場に携わるプロたちの、その目を通し「死」を見つめる。自らを語ることがあまりなかった職種を通し、葬送の実際をルポする。

コウノドリ16 鈴ノ木ユウ著 講談社

経産婦・秋野さんは、小さい子供がいるため、2人目を産む際に産後の回復が早いVBAC(帝王切開後の経膈分娩)を希望して聖ペルソナ総合医療センターを訪れた。彼女の意思を尊重したい鴻鳥だが、リスクの多い出産をよしとしない四宮と対立してしまう。

